

# てんさい「H152」

## 1 特性の概要

### (1) 来歴

てんさい「H152」は、ベルギーのセスバンデルハーベ種子会社が育成した二倍体単胚の一代雑種系統である。セスバンデルハーベ種子会社が育成した二倍体単胚雄性不稔種子親系統「MS102」と二倍体多胚花粉親系統「POL104.034」を交配して育成した。平成28年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し、平成29年から令和元年に、北見農試、十勝農試、北海道てん菜協会（日甜、北糖、ホクレン）において輸入品種検定試験を、北見農試、十勝農試、中央農試において各種特性検定試験を行った。また、平成30年、令和元年に全道3か所において現地検定試験を行った。

### (2) 特性

「H152」は、高糖分品種の「ラテール」と比較して、根重がやや多く、根中糖分はほぼ並で、糖量が多い。褐斑病抵抗性が「ラテール」の“強”に対して“中”であるが、「パピリカ」の“やや弱”に比べてやや強い。

調査年次	平成29～令和元年			
	H152	アマホマレ (標準品種)	ラテール (対照品種)	パピリカ (比較品種)
根重 (t/10a)	7.57 (103)	7.36 (100)	7.18 (98)	8.23 (112)
根中糖分 (%)	17.54 (100)	17.57 (100)	17.18 (98)	16.73 (95)
糖量 (kg/10a)	1,328 (103)	1,293 (100)	1,235 (96)	1,376 (106)
抽苔耐性	強	強	強	強
そう根病抵抗性	強	弱	強	強
褐斑病抵抗性	中	中	強	やや弱
根腐病抵抗性	弱	弱	弱	やや弱
黒根病抵抗性	やや強	中	やや強	中

注1) 根重、根中糖分および糖量は、北見農試、十勝農試および北海道てん菜協会(3か所)ののべ15か所平均で、括弧内は「アマホマレ」に対する百分比。

2) 特性検定は抽苔耐性(北見農試、平成30年、令和元年)、そう根病抵抗性(北見農試、平成29～令和元年)、褐斑病抵抗性(十勝農試、平成29～令和元年)、根腐病抵抗性(十勝農試、平成29～令和元年)、黒根病抵抗性(中央農試、平成29～令和元年)の成績。

### (3) 長所及び短所

長所1 根重がやや多く、根中糖分が対照品種並に高く、糖量が多い。

短所1 褐斑病抵抗性が“中”である。

2 根腐病抵抗性が“弱”である。

### (4) 用途

砂糖原料用

## 2 候補理由

平成 24 年に北海道優良品種に認定された「ラテール」は、テンサイそう根病、テンサイ褐斑病、テンサイ黒根病の 3 病害に抵抗性を持つ。特に褐斑病抵抗性が“強”であり、ホクレンの栽培地域での主力品種「パピリカ」が多収であるにもかかわらず褐斑病に弱いため、褐斑病の発生しやすい圃場で栽培されてきた。また「ラテール」は根中糖分も高いため、低糖分になりやすい圃場でも栽培されてきた。このようにてんさいの安定生産に貢献してきた「ラテール」であるが、収量が低いため、収量性の向上が課題となってきた。

「H152」は、「ラテール」と同様に、そう根病と黒根病に抵抗性を持ち、根中糖分は、ほぼ「ラテール」並の高糖分である。また褐斑病抵抗性が“中”と「ラテール」より弱い、「パピリカ」よりは強い。また、根重と糖量が多く「ラテール」より収量性が向上している。

以上のことから「H152」を、褐斑病発生に特に注意が必要な圃場を除いて、「ラテール」と置き替えて普及させることで、てん菜生産と農家所得の安定と向上に寄与できる。

## 3 普及

### (1) 栽培適地

北海道一円

### (2) 普及見込み面積

3,000ha（平成 30 年作付け総面積 57,209ha の 5.2%）

### (3) 北海道農業試験会議（成績会議）における判定

普及奨励事項

## 4 その他特記事項

(1) 褐斑病抵抗性が“中”であるので、適切な防除に努める。

(2) 根腐病抵抗性が“弱”であるため、適切な防除に努める。

## 5 参考データ

なし

(写真)

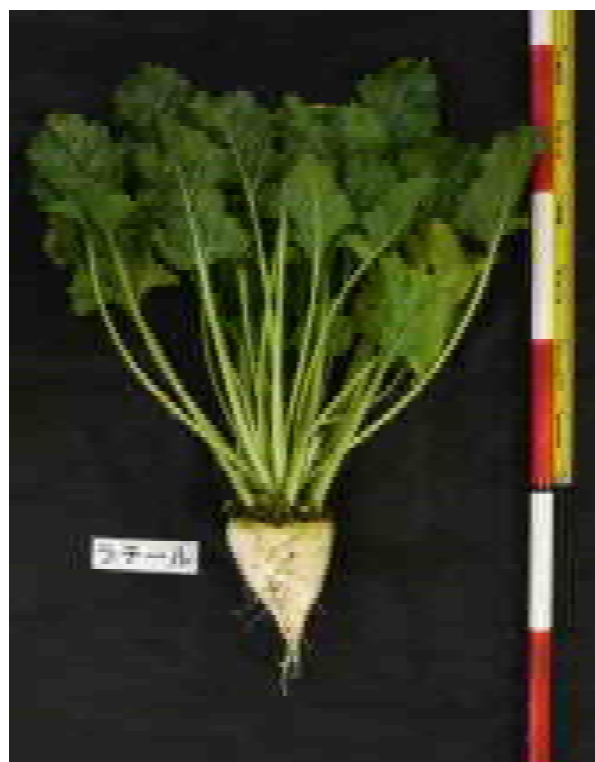
## てんさい「H152」

(令和元年10月8日撮影 北見農業試験場 直播栽培)

播種日5月8日、畦幅60cm、株間23.8cm



「H152」



「ラテール」 (対照品種)



「アマホマレ」 (標準品種)